

科目名	先端血液解析学講義			分野・必選別・単位数	専門科目 (臨床検査技術学)	選択	2単位
科目責任者	◎教授 川杉和夫 准教授 福田晃子 准教授 藤原孝記						
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義
授業の概要	造血器腫瘍や血液凝固・線溶機構、その他の分子・遺伝子レベルでの理解に基づき、疾患早期診断や治療、病態解析に直結する血液学的検査、分子・遺伝子検査の応用力を身につける。さらに、輸血・移植免疫学における諸問題を分子・遺伝子レベルで理解し、問題解決に向けてどのような研究が行われているかを検討する。						
授業の到達目標	①血液疾患の成因、病態について深く探究し、正確に説明できる。 ②血液疾患の診断と治療において分子生物学的技術がどのように応用されているか説明できる。 ③分子生物学、遺伝子科学の知見が、造血器疾患の病態解析と治療法の開発にどのように利用されているか説明できる。 ④HLA遺伝子型決定の輸血学、臨床血液学的意義を説明できる。 ⑤輸血療法における血液型判定技術の動向と問題点を説明できる。 ⑥血液疾患ならびに血液検査学における研究動向について説明できる。						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	川杉 和夫	教授	血液疾患の成因、病態についてより深い知識を有している。			
	2	川杉 和夫	教授	血液疾患の診断と治療における分子生物学的技術についてより深い知識を有している。			
	3	川杉 和夫	教授	血液疾患の分子・遺伝子学的異常とその検査法についてより深い知識を有している。①			
	4	福田 晃子	准教授	血液疾患の分子・遺伝子学的異常とその検査法についてより深い知識を有している。②			
	5	福田 晃子	准教授	血液凝固・線溶機序ならびに血小板機能について説明できる。①			
	6	福田 晃子	准教授	血液凝固・線溶機序ならびに血小板機能について説明できる。②			
	7	福田 晃子	准教授	血液凝固・線溶機序、血小板機能異常症について説明できる。			
	8	川杉 和夫	教授	血液凝固・線溶機能異常症の解析について説明できる。			
	9	藤原 孝記	准教授	輸血・移植免疫学における臨床検査の研究動向を説明できる。			
	10	藤原 孝記	准教授	論文抄読を通して、臨床免疫学の研究動向を説明できる。			
	11	福田 晃子	准教授	論文抄読を通して、血液検査学の研究動向を説明できる。①			
	12	福田 晃子	准教授	論文抄読を通して、血液検査学の研究動向を説明できる。②			
	13	藤原 孝記	准教授	論文抄読を通して、輸血・移植免疫学の研究動向を説明できる。			
	14	藤原 孝記	准教授	論文抄読を通して、HLA検査に関する研究動向を説明できる。			
15	藤原 孝記	准教授	論文抄読を通して、輸血学の研究動向を説明できる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	次回授業部分の資料を事前に読んでおくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	随時指示する。						
参考書	随時指示する。						
成績評価の方法および基準	レポート50%、口頭試問50%						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						